


BUNGAKUZA TSUSHIN 2019.9 Vol.721

# 文学座通信

- アトリエの会『スリーウインターズ』………1~4  
作家テーナ・シュティヴィチッチからのメッセージ  
こんな時代だからこそ——松本祐子  
時代の流れの中で——常田景子  
登場人物関連図/公演情報
- 地方公演『再びこの地を踏まず-異説・野口英世物語-』…5
- 本公演『一銭陶貨~七億分の一の奇跡~』…6~7
- アトリエ短信………8

## 文学座9月アトリエの会

 文化庁文化芸術振興費補助金  
(舞台芸術創造活動活性化事業)  
独立行政法人日本芸術文化振興会

# スリーウインターズ

THREE WINTERS

作/テーナ・シュティヴィチッチ 訳/常田景子 演出/松本祐子

9月3日(火)~15日(日)  
信濃町 文学座アトリエ



Photography by Milica Czerny Urban

### 作家 テーナ・シュティヴィチッチからのメッセージ

『スリーウインターズ』は、ある意味では確かにクロアチアをテーマにした戯曲ですし、クロアチアで上演する際には、ザグレブ方言で書いた台本を使うため、また、私がザグレブ特有と思う感じ方、考え方のゆえに、他にはない独特な芝居になります。ですが、これは、20世紀を通じて、世界のいたるところで様々に、輝かしく湧き起こってきた女性たちの声と自我の目覚めについての芝居でもあります。自分の戯曲の新たな上演を見ることになって、これほどわくわくするのは久しぶりです。この戯曲が日本でどのように解釈され、日本の観客の皆さんが、どのように反応し理解してくださるのかを目の当たりにすることができるからです。(訳・常田景子)

### ◇ Tena Štivičić (テーナ・シュティヴィチッチ)

1977年クロアチア・ザグレブ出身の女性作家。クロアチアでは雑誌のコラムニストとしても活躍。ザグレブ大学演劇学校、ロンドンのゴールドスミス・カレッジを卒業。在学中に書いたデビュー作『Can't Escape Sundays』はヨーロッパ各地でラジオ制作や出版も行われ、数多く上演された。その他の彼女の作品もヨーロッパを中心に10か国語で翻訳され、注目されている。本作は2014年ロンドン・ナショナルシアターで初演、翌年にはスーザン・スミス・ブラックバーン賞を受賞。2016年にはクロアチア国立劇場でも上演された。

## こんな時代だからこそ 松本祐子

ユーゴスラヴィアという国に初めて興味を持ったのはエミール・クストリツァ監督の「アンダーグラウンド」を見た時でした。自分を育ててくれた国がなくなるという悲劇に対しての激しい怒りと悲しみを圧倒的な熱量で描いたその作品に、心を激しく揺さぶられました。それから20年経ったある日、ニューヨークの演劇書専門の本屋さんでこの『スリーウインターズ』に出会いました。

ユーゴスラヴィア連邦共和国の構成国のひとつだったクロアチアに生きる四世代の女性たちとその家族を描いたこの作品に、私は魅了されました。1967年生まれの日本人の私は彼の地の女たちほどには激烈な歴史の波を経験はしていません。しかしながら、社会の中で女性が如何にして自分の尊厳をかけて生きてきたか、そして家族を愛してきたかということや、より良い社会を作り上げたいという理想と、おのれが豊かに暮らしたいという欲望と、誰もが幸せになるなんてことは不可能なのではという現実が描かれていることに、しみじみ共感させられました。

今、世界はととても危うい状態にあるように感じています。様々な国で自国ファーストを謳い他者を排除しようとする動きが加速しているように感じます。こんな時代だからこそ、小さな歴史と大きな歴史を見直すことが必要なのではないでしょうか。『スリーウインターズ』があなたの家族と世界の“過去と現在と未来”を考えるきっかけになることが出来ればと願っています。



立ち稽古開始前、演出家を取り囲む出演者とスタッフたち。小道具の取り扱い、登退場や舞台上の導線などを確認する。

## アトリエ短信

### ■第27回読売演劇大賞中間選考会発表

優れた舞台作品や演劇人を顕彰し、演劇界の発展を目指す「読売演劇大賞」の中間選考会で、2019年上半期(1~6月)の作品賞など5部門のベスト5が発表されました。

『オレスティア』(新国立劇場)で主人公の伯父を演じた佐川和正は「実力ある演技派俳優。きちんとした人物造形で、約2500年前のギリシヤ悲劇を現代風に仕立てた芝居の柱となっていた」と評価され、男優賞に選ばれました。

また、『ヒトハミナ、ヒトナミノ』(企画集団マツチポイント)を演出した松本祐子は「介護現場の性という難しい題材に想像を交えながら真摯に取り組んでいる」役者の使い方が丁寧」とたたえられ、演出賞に選ばれました。

### ■新人お披露目会

【主催】顧客担当委員会

7月13日、新座員・新準座員をパートナーズ倶楽部の方々(支持会からの当選者含む)に紹介するお披露目会が文学座の稽古場で行われました。今年は(不条理劇つなりの構成舞台)観劇後、歓談のひとつを過ぎ過ぎていただきました。

#### 【新座員・54期】

【演技部】柴田美波、宝意紗友莉

#### 【準座員・55期】

【演技部】杉宮匡紀、西村知泰、音道あいり

【演出部】小原まどか、水野玲子

#### 【新準座員・56期】

【演技部】武田知久、外爾海士、ランディ

【演出部】磯田美絵、張平、松本祐華

【座員・協力】(演技部)原康義、大滝寛

若松泰弘、木場允視、越塚学、南

一恵、山本郁子、大野香織

【演出部】阪口美和、丸田裕也



出演は54、56期

### ■附属演劇研究所研修科第三回発表会

唐十郎 作 小林勝也 演出

『少女仮面』

◇出演予定 飯川瑠夏、川合耀祐、喜田裕也、

白神冨京、春田玲緒、松浦慎太郎、小石川桃子、

鈴木結里、田村真央、渡部明日香、渡邊真砂珠、

岡本祐一郎、瓦谷龍之、常深伶、池亀瑠真、

甲斐巴菜子、影井蘭、風間き理、北川莉那、

小林彩、中嶋真由佳、森寧々

◇10月10日(木) 14時/19時

11日(金) 14時/19時

12日(土) 13時/17時

13日(日) 13時/17時

◇信濃町・新モリヤビル1階

◇入場料1,000円(税込・要予約・全席自由・当日精算)

◇ご予約受付開始 初日

9月27日(金) 午後7時~午後9時まで

◇ご予約・お問い合わせ ☎03・3351・7265

(午前11時~午後6時/日・祝除く)

※web予約もご利用ください。

### ■『加藤武芝居語り』書籍出版

『加藤武芝居語り―因果と丈夫なこの身体』(市川安紀・著)が加藤武さんの命日7月31日に筑摩書房から刊行されました。生前最後のインタビューをまとめたノンフィクションで、2015年~2017年「キネマ旬報」連載の全35回分を一冊にまとめたものです。

企画から5年掛かりの取材は、ライターで編集者の市川安紀さん。生涯現役を貫いた加藤武さんの生きてきた時代、座員をはじめ演劇人・映画人との交流、東京という街の変遷など、豪快な江戸弁で語り尽くしています。



【定価】本体2,200円+税

### ■文学座12月アトリエの会

## 『メモリアル』

12月3日(火)~15日(日) 文学座アトリエ

文学座が初めて出会う作家・松原俊太郎が書き下ろす〈聖性と冗談〉!? 今井朋彦初演出作となります。

松原俊太郎=作  
今井朋彦=演出

◇出演 太田志津香、上田桃子、前東美菜子、神野 崇、山森大輔、萩原亮介  
◇スタッフ 美術=乗峯雅寛/照明=阪口美和/音響=藤田赤目/舞台監督=岡野浩之  
制作=梶原 優、田中雄一朗、佐藤竜太郎

### 出演情報

- ☆ たかお 鷹、石川 武、沢田冬樹、櫻井章喜、栗野史浩、木津誠之、川辺邦弘、宮澤和之、越塚 学、赤司まり子、名越志保、岡本温子：『日の浦姫物語』(井上ひさし作、鶴山 仁演出) 9/6~23 紀伊國屋サザンシアター TAKASHIMAYA ☆この公演には文学座支持会、パートナーズ倶楽部会員特別割引があります。詳細はこまつ座 TEL03-3862-5941まで
- ★ 駒井健介：『ハムレット』(W・シェイクピア作、松岡和子訳、森新太郎演出) 9/8~10/6 東京グローブ座、10/9~15 森ノ宮ピロティホール (大阪)
- ★ 高橋耕次郎：GooDFellowS 虎の会

- vol.6『緑の国』(きむらゆういち原作「あらしのよるに」/W・シェイクピア作『リア王』より 高橋耕次郎 台本・演出) 9/17~22 桜台ジョイジョイステーション
- ★ 柴田美波：『フランドン農学校の豚〜注文の多いオマケ付き〜』(宮沢賢治原作、佃典彦脚本、西沢栄治演出) 9/20~10/4 座・高円寺1 (中学生以下無料)
- ★ 栗田桃子：『終夜』(L・ノレン作、岩切正一郎・ヘレンハルメ美穂訳、上村聡史演出) 9/29~10/27 シアター風姿花伝
- ★ 石橋徹郎：『どれミゼラブル!』(可児理華脚本、池田テツヒロ演出) 10/3~14 博品館劇場 (銀座)

- ★ 廣田高志、采澤靖起、高橋紀恵、鈴木亜希子：『どん底』(M・ゴーリキー作、安達紀子訳、五戸真理枝演出) 10/3~20 新国立劇場 [小劇場]
- ★ 助川嘉隆、斉藤祐一：邦楽公演『浮世絵の音風景〜歌川広重「東海道五拾三次」をたどる』 10/4・5 国立劇場 [小劇場]
- ★ 上川路啓志：『日輪の翼』(中上健次原案、山崎なし脚本・作詞、やなぎみわ演出) 10/4~6 神戸市中央卸売市場 [本場内 特設会場]
- ★ 金内喜久夫：『この道はいつか来た道』(別役 実作、鶴山 仁演出) 10/11~19 下北沢駅前劇場